平成 23年 9月 1日
第 52 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

水路と農道の長寿命化に新たな支援策がスタート

優良な農地に対する新たな補助制度が始まります。現在私たちが取り組んでいるのは「農地・水・環境保全向上活動」です。これは、農家だけでなく地域が力を合わせて環境向上への共同活動を推進するものです。農林水産省ではこの事業が効果的であったと評価した上で、水路や農道の長寿命化に特化した事業「農地・水保全管理支払交付金」をスタートさせました。

同じような交付金ですが、共同作業主体の自主施行だけでなく、外部発注による業者施行も選べるようになっています。山口市農業整備課の説明が何度かあり、ようやく全体の輪郭が見えてきたような状況です。

当地区の圃場整備は県内でも一番早い時期に取り組んだものですから、水路はあちこちに傷みがあります。従来の制度では、限界のある部分もあり、全体の補修には相当の年数がかかるだろうと予測されていました。新しい交付金の導入でその補修の範囲が大幅に広がる可能性が出てきました。

市の農業整備課と、さまざまなやり取りを繰り返してきましたが、ようやく協定を結ぶことができる段階まで進んできました。最後は会員の皆さまのご意見を伺うことになります。ついては臨時総会を開催することとなりますので、よろしくお願いします。


水路のコンクリートははがれたり、損傷したりしている



自在に飛び回るヘリコプター

ラジコン操作の防除ヘリ

青々とした稲の先に舗が出そろいましたが、これからが稲の病気には厳しい時期となります。病気の発生や、害虫被害を押さえ込むには農薬を適切に使うことが必要です。

小型の防除ヘリが連日八方原の圃場を飛び回っています。全長が3メートル余このヘリコプター、無線操縦で飛行しながら、それぞれの水田の上を自在に動き回って必要最低限の薬品を散布します。

業者に話を聞くと、山口市南部を中心に広範囲に仕事をしているとのことですが「今日は防除した直後に急に雨が降りだして、折角散布した薬剤が流れ落ちてしまったので、やり直しました」と苦笑いしていました。誰もが簡単には操縦できないとのことですが、この日のオペレーターは若い女性でした。彼女はこの仕事に就いて8年目とのことでした。「そういえばこの八方原が彼女のデビューでした。ホバリング（空中に停止すること）をやりすぎて稲が倒れてしまい、叱られました」と話してくれました。

これからも安全で効果的な防除作業をお願いします。


ラジコンの操作をする女性オペレーター

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

ふれあい盆踊り 行く夏を惜しむ



一瞬の輝き、花火の光に見入る

八方原ふれあい盆踊りが8月6日三角公園で行われ、地区内の多くの方々が参加しました。

夏の暑い盛りには盆踊りが各地で行われます。ご先祖をご家庭にお迎えして共に過ごすのが「お盆」ですから盆踊りをご先祖の方々の心を慰めるものと捉えるスタイルのお祭りと、その趣旨に従ってはいるものの、むしろ地域の融和を図る機会と捉え、「夏まつり」として行われるものとに分かれます。

「八方原ふれあい盆踊り」はその両者を取り入れたものと言えるかも知れません。子どもから大人まで楽しめるように、ゲームや食べ物、飲み物など用意されています。踊りも「ふしの踊り」「小郡音頭」「白河踊り」「炭坑節」と4つの踊りがありました。とくに「白羽踊り」は太鼓と歌だけで踊ります。太鼓のリズムだけが踊りをリードします。踊りをリードしながら上手に叩くのは簡単ではありません。

一昨年前から始めた子どもたち向けの「花火タイム」は大人気でした。夏の夜空に打ち上がるもの、手元でちろちろと火花を散らす線香花火、夏ならではの楽しみです。

この盆踊り大会はたくさんの方々のご協力で成り立っています。地区内の事業所の方々のご寄附や機材の貸出しなどのご協力。また子ども会、生改連グループ、ソフトボール同好会（青年部）のゲームやバザーも大盛況でしたが、準備から当日の運営、販売までご苦労様でした。



踊りの輪がどんどん広がっていった

後半の踊りでは、参加の方がどんどん増えて、大きな輪となりました。まさに地域の一体感そのままのようでした。子どもたちから大人まで今年も元気な地区の面々を見て、お先祖様も喜ばれたに違いありません。

八方原の踊りを披露



八方原の大うちわが河川公園に翻る

第33回ふしの夏まつりが7月30日開催されました。総踊りには八方原区も参加。踊りの輪を広げました。

昨年から各家庭に協力金として200円をお願いしてますが、今年は小郡地域内で120万円以上の協力金が集まったとの報告がありました。市の補助金や事業所のご寄附だけでなく住民自身が支える「お祭り」がこれからの主流になっていくのでしょう。

八方原・森下連合チーム子ども会球技大会で優勝



勝ち上がったトーナメント表と一緒にポーズ

子ども会の球技大会が7月31日行われました。ドッジビーと呼ばれる競技に八方原と森下連合チームが参加しました。毎朝の練習の成果を見事に発揮、決勝戦は昨年と同様の対決となりましたが、今回は昨年の雪辱を果たしました。おめでとうございます。